



な

なんぶ つがる
南部と津軽

ふたまたがわ
二股川を挟んだ

はんきょうづか
藩境塚

藩境塚(県史跡)
野辺地町と平内町の町境に四つの土盛り(どども)の塚(つか)があります。三五〇年以上前に二股川(ふたまたがわ)を境(つがわり)に津軽領(つがるりやう)と南部領(なんぶりやう)にそれぞれに基づつ造(つく)られました。塚(つか)の大きさは直径(ちゆうけい)が十メートル、高さ三・五メートルです。盛岡藩(もりおかはん)の馬門村(うまかどむら)と黒石藩(くろいしはん)の狩場沢村(かじりばさわむら)にはそれぞれに番所(ばんじよ)が設置(ていし)され、通行人(つうぎやうにん)を取り締(と)まりました。



に

「ニシ、ニシ」が

なつ
懐かしい

のへいづべん
野辺地弁

野辺地弁
近(ちか)ごろは野辺地弁(へいづべん)があまり聞(き)かれなくなりましが、時代(じだい)と共に変わ(かわ)つてきています。京都(きょうと)や大阪(おさか)のことばが伝(つた)わつたといわれるものもあります。「オオキニ」「オデリマセ」「アガサマへ」などのことばです。「ソダニシ」など最後に「ニシ」がつくのが野辺地弁(へいづべん)の特徴(とく)です。



ぬ

ぬいあ
縫い合わせ

のこ
ふくさとして残る

えぞにしき
蝦夷錦

蝦夷錦
中国(ちゆうごく)清王朝(せいぢゆうわう)時代の官服(くわんぷく)や反物(たんぶつ)として作(つく)られた絹織物(きぬおりもの)です。「北(きた)のシルクロード」五千(ごせん)キロメートルにも及(およ)ぶ交易路(かうぎりう)を通(とお)り、清王朝(せいぢゆうわう)から山丹人(さんたんじん)、アイヌ民族(あいにんぞく)、北海道(ほくかいどう)の松前藩(まつぜんはん)へと多くの人の手(て)に受け継(つ)がれて野辺地(へいづち)にあります。北海道(ほくかいどう)を蝦夷地(えぞち)と言(い)つていたので「蝦夷錦(えぞにしき)」と呼ば(よ)ばれています。



ね

ねっしん
熱心に

ほつぼうたんけん
北方探検の

もがみとくない
最上徳内の

最上徳内
最上徳内(もがみとくない)は一七五五年(いちせちごごねん)、出羽(でわ)山形県(やまがたけん)に生まれましました。江戸時代(えどじだい)後期(こうき)の探検家(たんけんか)で、蝦夷地(えぞち)(北海道(ほくかいどう))に九回(くわい)も渡(わた)り、国後島(くにのちうじま)、択捉島(えちまづじま)、ウルップ島(うるっぷじま)、樺太(かまた)などを探検(たんけん)し有名(ゆうめい)になりました。野辺地(へいづち)には二年間(にねんかん)滞在(たざい)し、野辺地(へいづち)の島谷(しまや)さんと結婚(けっこん)しました。